

## 11. 高知県立大学県民大学学生プロジェクト「立志社中」の採択と活動

### 概要

令和2年度は、いけいけサロン活動、グローバルクラブ、健援隊 Bravo・Charlie チームの3団体が看護学部の学生を主体とした団体として採択された。

本年度は、世界的な COVID-19 の感染拡大に伴い、立志社中の募集開始が延期され、採択され活動が開始された後も、国内および県内の感染状況にあわせての活動となった。政府等の広報などで、大学生を含む若者の動向が感染拡大に大きく影響していると周知されていたこともあり、学生からは活動を行うことで万が一感染を広げることへの不安や地域の方へアクセスすること自体に躊躇する様子もみられた。

このような状況下で、各団体は、ICT を用いた活動や広報誌の配布、情報収集を中心にした活動など新たな手法を用いた活動を模索した。また、学生課や立志社中事務局の指針に沿って活動を行った。

来年度以降への課題として、前期の新入部員募集期間が遠隔授業と重なり、来年度の活動の中心となる1回生の募集が大幅に縮小した団体もあり、学年間での活動の継承が課題になると考えている。

### 1) 健援隊プロジェクトの活動

健援隊は、立志社中プロジェクト開始当初から設立され、今年で7年目の活動となった。コロナ禍で活動制限がかかる中、これまでの活動で築いてきた地域の方々との繋がりが維持できるよう、紙媒体を通じて健康意識を高める活動を2チーム合同で立志社中に申請し、実施した。これに伴い、本年度の活動は、手紙の英語の頭文字の L を基に、例年の方針に従い Phonetic code を用いて、Lima プロジェクトと命名した。

Bravo チームは、香美市物部町神池で2か月に1回、レターを通じて健康行動の普及活動の継続と、近況報告をして互いの状況を知らせ合う活動を行った。また、新たに香美市物部町柳瀬からの依頼も受けて、住民の方のニーズ調査を行い、その結果、住民の方から防災や健康行動について知識の普及を求めるニーズがあることが明らかになった。

Charlie チームは、新たに五台山保育園へアクセスし、保育士から幼児の健康ニーズを伺い、排便習慣の獲得を促進するレターやチェック表を作成した。そして、感染予防のため保育園訪問ができないため、レターやチェック表を用いた園児への教育を保育士に依頼した。その結果、排便へ興味が促進され、便の形状を知らせたり、よい排便習慣を獲得するための食事や水分の摂り方について、子どもからの発信が増えた。また同様の活動を土佐山田幼稚園でも行った。

今年度の活動で、COVID-19 で活動制限が必要になり、直接地域の方と対面して交流する機会をもてなかった一方で、健康意識の向上という点で繋がり、新たに交流を始めた住民の方々もいて、住民が学生に求める健康ニーズも明らかになった。次年度もコロナ禍という難局を、学生の創意工夫で乗り越え、地域のニーズに応える活動を継続、開発したいと考えている。

### 2) いけいけサロンの活動

「いけいけサロン活動」は、看護学部2回生12名、3回生5名、4回生5名の計21名で活動する結成6年目のチームである。このチームは平成27年5月、「地域の高齢者の方と一緒に交流したい」という看護学部学生と、住民の方の声があがり、「地域サロン」を立ち上げたことで開始された。活動地域は高知市池地域である。令和2年度は、活動目的「地域全体でつながった温かい空間の中で共に学び日常の刺激となる」のもと、活動を展開した。「学ぶ姿勢」を持ち、「池地域

の住民の方と柔軟なスタイルで、「住民の方と学生、一人ひとりに寄り添う」ことを掲げ、COVID-19の影響下でも、楽しめる活動を検討した。

このグループは、従来から住民の方と学生が直接顔を合わせることを大切にしてきたため、コロナ禍のなかで直接会えなくてもできることを2回生メンバー中心に活動内容が検討された。なぜ、顔を合わせる事が大切と考えてきたか、を問い直し、今年度は住民と学生の「交換日記」にて、これまでにできた交流を絶やさないと決めた。他にも毎月届けるサロン休止のチラシには、学んだばかりの衛生的手洗いの内容を写真付きで掲載し、地域の感染予防にも取り組んだ。電話で交流を図ったり、地域の方の学生への応援メッセージが書かれた色紙が届いたり等、コロナ禍のなかで互いの思いを伝えあえた1年だったように感じる。

これらの活動から学生は「会えない状況でも、これまで築いてきた住民の方と学生の信頼関係・つながりを大切にすることで環境が変わっても住民の方との活動を続けていくことができる」と学び、地域の方に感謝の気持ちを持って、次年度へ続くよう活動が続けられている。この1年、互いに対面できないなかでの活動であったが、形を変えても、相互の思いやりを持った時間を過ごせていたように感じる。今後の展開に期待したい。

### 3) 「立志のたまご」グローバルクラブの活動

令和元年度後期に「立志のたまご」として採択されたグローバルクラブは、令和2年度から「立志社中」として活動を開始した。令和2年度は、COVID-19感染予防対策のため、地域でのフィールドワークや情報収集が困難な時期が長かったが、高知で生活する外国の方の実態について県内1カ所でインタビューする機会を得て、予防的保健行動についての知識・理解・情報が十分でない対象者への健康講座や、災害時にパニックにならない対応についての知識普及の具体的な方法や媒体の開発を検討することができた。

今後さらに、子どもをとりまく現代的課題だけでなく、受講者の学びのニーズを捉えながら、講習内容や教授方法を工夫し受講者の確保に努めていきたいと考える。